

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポラックケ谷九〇四 電話(03)3337714649 FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

### 〈もくじ〉

#### ■巻頭言

難病の妻を抱える保坂貢さんの配転を

— NTTは「介護休業法」を守れ —

保坂さんを転勤させる会……2

うれしいこと—ハンセン病差別に思う

— 架け橋 長島・奈良を結ぶ会 —

稲葉 耕一……3

「派遣切り・期間工の雇止め」と対決

— 全国の支援を今こそ —

稲村 守……5

社会主義を展望する労働運動

総力をあげて三月闘争へ

— 一〇四七人問題解決へかく闘う —

宮川 敏一……8

いざ 主戦場へ!

人間の価値がない社会

— 首切り記念日 —

中野 勇人……11

赤峰 正俊……12

読者からのおたより

13

# 旬刊 社会通信

NO. 1044

二〇〇九年三月一五日号

二〇〇九年三月一五日発行  
(毎月一日・一五日二回発行)

## 難病の妻を抱える保坂貢さんの配転を

NTTは「介護休業法」を守れ

NTT東日本株式会社の社員である保坂貢（NTT神奈川支店法人営業部勤務）さんの妻は、難病である多系統萎縮症（旧病名は脊髄小脳変性症）に罹病しております。

この間、NTTに対しては、労使間の団交、市民団体の要請行動、そして厚生労働省への要請行動等を通じて、妻の介護・リハビリがこれまで以上にできるよう、「介護休業法を遵守し、通勤時間が短くなる自宅の近隣にあるNTT職場へ転勤させるよう」訴え続けています。しかしNTTは、実態を直視せず、「人事問題」と矮小化し、いっこうに誠意ある態度を示しません。この間にも、病状は悪化しています。

### 保坂貢さんの転勤と妻の病状

1、保坂美音子（四八歳）

二〇〇二年一〇月 脊髄小脳変性症と診断され、難病に認定された。

（夫の勤務地：大田区蒲田）

二〇〇三年二月 身体障害三級に認定された。

（夫の勤務地：大田区蒲田）

二〇〇七年六月 身体障害一級に認定された。

（夫の勤務地：横浜市・最寄り駅は桜木町駅）

2、最近では一人で歩くのがたいへんな状況になり、そして、何回かモノがのどに詰まってしまう症状（嚥下障害）がで、立ちくらみで倒れる（起立性低血圧）ことがあるので注意することと医者から言われ、さらに、脳梗塞の症状もでてきた。障害者等級は、三級から一級になった。妻の病状を悪化させないためにも、家事だけでなく、これまで以上のリハビリの時間を必要としている。

### 保坂貢さんの配置転換の経過

二〇〇三年四月 大田区蒲田営業所から川崎法人営業部へ転勤。

通勤時間二五分から三五分へ変更になったが始業時間が、

八時半から九時になり朝三〇分遅くなった分帰りが四〇分遅くなった。

二〇〇五年七月 神奈川支店法人営業部営業担当へ転勤。通勤時間五〇分。

蒲田営業所までより二五分延び、帰りが一時間五分遅くなった。

このように、再三要望してきたにもかかわらず、通勤距離が延長された。

### 保坂貢さんを配転させる取り組み

1、保坂貢さんは二〇〇三年、NTT「退職・再雇用」時、退職・再雇用に応じませんでした。介護、育児を考えると一五%の賃金ダウンにはとうてい応じることがで

きなかったからです。その結果、蒲田から川崎、そして桜木町へと配転させられました。まさに、退職・再雇用に応じなかった保坂さんへの「報復」であり「みせしめ」です。

2、川崎から桜木町への配転時、神奈川労働局機会均等室はNTTに対し「介護休業法二六条を遵守するよう」指導しましたが、無視しました。介護休業法二六条を無視した配転は無効です。

3、日頃、コンプライアンス（法令順守）というNTTに、「なきねいり」せず、法令を守れと主張する闘いです。

4、なによりも、人権を無視し続け、個人の問題として自己解決すべき、というNTTの態度は許すことはできません。

5、前「1〜4」項の認識のもとに、取り組んでいきます。

NTTに、「介護休業法を遵守し、通勤時間が短くなる自宅の近隣にあるNTT職場へ転勤させるよう」今後とも追及し、解決させたいと考えます。これまで記した経過をご理解いただき、ご協力をお願いいただけます。

（難病の妻を抱える保坂さんを転勤させる会）

（連絡先） 東京都千代田区岩本町二―一七―四 労働運動センター内

N関芳 電話 〇三―五八二〇―二〇七〇

## うれしいことーハンセン病差別に思う

ー 架け橋 長島・奈良を結ぶ会 ー

昨年に、架け橋 長島・奈良を結ぶ会の事務局の仕事させてもらって、心に残ったことを紹介したい。

九月の県人権・部落解放研究会第一日目、映画「蟹工船」が始まったとき、高瀬さんより電話が入った。その翌日の分科会講演予定の（岡山県にある国立ハンセン病療養所の）長島愛生園入所者自治会長の高瀬重二郎さんを榛原駅に迎えた。同じく事務局の岩城さんとともに。

「高瀬さん、夕食まで少し時間があるのでどこか、見学したいところ、行きたいところありませんか」「守道というところある？『戦友』がいて、昨年、年賀状が来ず、元氣か心配だ。探してくれる？」

岩城さんは宇陀市で働く人だから、守道の前川幸二さん宅を探しあてた。敗戦からの再会。

六十余年ぶりでお互いに大喜び。それ以上に高瀬さんが喜んだことがある。「美榛苑に泊まるって？なんで、うちへ泊まってくれへんかったんや」。この一言である。

国家権力から絶対隔離され、国民から差別され、家族・故郷の差別に呻吟してきた中で、「戦友」とはいえ、「うちで泊まれや」とこんな温かい、差別を感じられない、その気持ちが出来なかったと帰る車中で高瀬さんからしんみりと聞かされた。

前川さん宅からの帰り、岩城さんの紹介で、菟田野区の岩崎の墓地を訪れた。オヤスさんの墓石に手をあわせた。地区外から移り住んできたオヤスさんはハンセン病にかかりハンセン病療養所へ強制移住させられ、そのずいぶんあとの「もうたぶん亡くなっているでしょうが、私たちのむらにオヤスさんがいたこと・ともにくらしていたあかしにと建てよう」との墓石らしい。なんとやさしい岩崎の人々の歴史の証であることか。高瀬さんも「心温まることだね」と。

昨年六月、邑久光明園（岡山県）へ「架け橋の会」から訪問した折りに、私ははじめて奈良県人会の人々（宇陀・御所・明日香などの出身）と会うことができた。県の里帰り事業や各々のくらしなども聞いた。帰ったあと巽正由県人会会長より、三十年間「架け橋」発足から取り組んでこられた鈴木京子さんあてと事務局長の私あてに各々手紙をくれた。その中味は――

奈良県で「架け橋の会」が行っている架け橋美術展に私たちはむかし反対だった。私たち入所している奈良県人のことが作品を通じて故郷の人々に知れたらいかん。絶対に知られぬようにかくして、長島にきて、故郷との行き来も断絶してきた。こんな美術展やめてほしいと長年思ってきた。しかし、みなさんが一生懸命やってくれている中、らい予防法が廃せられ、国の責任を明らかにした国賠訴訟で勝利するという、差別の流れが徐々に変わっていく中で、だんだん私たちに心を開かせてくれた。反対して申し訳なかった。今後よろしく。――（手紙の要旨）

今まで奈良県人会との間のパイプがつまっていたのにたいへんうれしい。長島愛生園の県人会代表中尾伸二さんの案内で奈良県人会の方の住まいへあいさつに行くこともできた。

そして、八月には両園の夏まつりに行った。巽正由県人会会長（光明園）と参加者の座談会をもち、巽さんの人生（明日香出身、大工、入所後も大工しごと、魚釣り大好き、入所後も魚釣り等々）を聞くことができた。奈良県出身の方々と交流ができたことがうれしい。さらに交流を深めていきたい。県（健康増進課）の里帰り事業に私たちの会も協力していきたい。架け橋美術展のとき奈良県人会の方にも奈良県へ帰ってもらいたいと思っている。しかし「もう年齢も高く、障害もあり、遠くへ行きたくない」と。

今年の架け橋美術展は第二十五回の節目であり、私たちの会も三十年の歴史を数えた。従って美術展は今年五月十五日～十七日、奈良市美術館（イトーヨーカドー五階）で行い、第一日目に岡山県長島（愛生園・光明園）や香川県大島（青松園）など作品出品者の方々、そして奈良県人会の方も迎えたい。夜は、架け橋三十周年記念パーティーもやりたい。翌日は奈良観光予定。また、私たちは昨年、今年と「藤本事件」（「狭山事件」と似ている）を映画化した、「新・あつい壁」という映画の県内上映にも取り組んでいる。

（奈良・稲葉 耕一）

# 「派遣切り・期間工の雇止め」と対決

― 全国 の 支 援 を 今 こ そ ―

## 次つぎとブラジル人、ペルー人が

資本主義の業病Ⅱ恐慌Ⅱ大量失業の発生が始まっている。政府調査で再修正加算して十五万七千八百余人、民間経営団体関係調査でも四〇万人の首を、この年度末で派遣・非正規労働者に犠牲転嫁してとばそうとしている。

青年・女性・高齢者そして滋賀県など自動車・家電中心の工業地帯では、日系ブラジル人・ペルー人などの外国人労働者にすべての犠牲を集中させている。ラテン系の外国人学校では生徒が年を明けたら、五分の一、十分の一しか来なくなり、あわてて嘉田由紀子知事が視察に訪れたり、日本を見切つて家族ぐるみで帰国するブラジル人が多すぎて空港でビザ発給停止（と本人らが言う）、航空券の値段を何倍にもされてぼったくられたりたいへんだ。経団連会長企業の滋賀県・長浜キャノンでは数千人の派遣・下請け切りも発表された。対象の四割は外国人労働者だ。

二年前正式結成した武庫川ユニオン滋賀支部の相談会は、臨時に一月四日開催を皮切りに定例第三日曜に開催しているが、案内状もビラ一枚も出していない（手が回らない）のに、三十人の会場に開催時刻前から（あのラテン系の人たちが）五十人以上も参加。すべてことごとく「派遣切り・期間工切り」を中心とする深刻な切迫した相談ばかり。スタッフも通訳もパソコンも（貸会議室なので）、相手（日曜なので敵の会社も関係機関も休日）もない中で、あるのは当事者の切迫した必要とこちらの熱意と頑張りだけで対応している。武庫川ユニオン小西純一郎書記長によると一九九五年の阪神淡路大震災直後の大相談会以来の事態で、相談日以外でも毎日二つの府（京都・大阪）を越えて尼崎の事務所に、たくさんブラジル人が相談にかけているという。

## 私が受けた相談事例

毎日マスコミが労組新聞並みに報道しても、あまり一般の人とはより本紙読者も本場の現実はつかめてないだろう。二月十五日の相談会で私が受けた事例は次の通りである。すべてブラジル人・・・だと思う（確認する暇がなかった）。

①D君。まだ若い。

H派遣会社から栗東の大工場・F化学に派遣。二月十二日に解雇を言い渡され、三月七日に五人解雇される。仕事は去年の八月二十二日から。行動提起↓(1)五日分の解雇予告手当てを取れる。(2)雇用保険は〇九年一月から入ったらしいので、ハローワークに行つて調べてもらい、遡つて加入したら適用されるなら会社に要求すること。(3)労働契約書は会社にしかないらしいから、コピーしてもらつてくること。(4)〇九年二月二日に十日分の年休権が発生するので、買い取つてもらおうか（労組本来の要求で

はないが)だめなら休むこと・・・以上四点は五人でまとまった方がいたので話してやってみよう、私の名刺を渡したので(D君に)、会社にこの組合に入ったとして交渉することをアドバイスした。組合加入書を渡して、次回に書いて持ってきてくれと言った。

② Lさん。四十五歳・男性。

鶏のさばきの仕事、直雇用、愛知県小牧からやってきた(そうとう遠い)。訪日十五年。本年一月二十五日に「二月二十四日までしか仕事がない」と言われた。一〇〇人以上労働者がいる。

その会社では、二〇〇六年五月から仕事した。契約書なく、雇用期限はない。行動提起↓(1)解雇予告手当ては残念ながら法律上は難しい。(2)年休は四日すでに取った。

あと二二日分未消化なので、お金でくれと要求して、ダメなら後残る九日間は年休で休むべし。(3)雇用保険は、ハローワークでこの前調べたら入ってなかった。賃金から毎月一七三二円引かれている。これは「泥棒だ!」と訴え、会社に入社時に遡って加入するよう要求すること。(4)労働契約書をもらうこと。

※ 組合入会書をすぐ書き、組合費と加入費計¥五〇〇〇をすぐ払ってくれた。会社と同行二月一六日、一番に交渉すべしだが、いかんせん小牧から来ているので(会社も小牧)、以上をすぐ月曜に会社と交渉するように、私の名刺を渡して、「この組合に入った」と示して話すように言った。翌月以降の組合費支払いはどうするのかとも聞かれた。まじめだ。

③ Vさん。だんなさんが労災申請したいという年配夫婦。

会社の仕事で目を傷めてすぐ病院に行った。証人も職場にたくさんいる。妻は日本語。べらべらなので、私の名刺を渡して、監督署に行って申請用紙をもらい、(会社は労災申請に非協力的だというので)わけを話し、病院に証明してもらって監督署に申請するように言った・・・二月二十三日に監督署に夫婦で行き、用紙をもらい病院に行く途中で私に電話してきたので、もう一度監督署に戻り、監督官から私に電話をしてもらった。

監督官氏は、「今まで会社が労災申請用紙に押印しないという事例はないので、なぜなのですか?」と聞くので(！)、日本の会社、とりわけ派遣会社のありよう・実態を力説し、この監督署管内の(一昨年けいわん腰痛で労災を取った)S精機の事例(この会社は社会保険事務所にとって前代未聞だったが、労災はおろか傷病手当金の請求書にさえ押印しなかった!)なども話したら、「この人もS精機にお勤めなんですか?」と聞くのでがつくり来て、また大きな声を出してお話をした。行動提起↓その監督官は「一度会社に電話してみます」と言ったので「そうしてくれ」と返事した。あとしばらくその嫁さんから電話ないのでこちらからかけたら、「昼から会社に行かないといけなくなった」と。その後連絡ないので順調にいったかもしれない。

④ Cさん、女性・四十歳くらい。

草津市の派遣会社・Gで一年四ヶ月働いた。アヤハ石部店に派遣され、人材派遣会社には行ったことなかったがアヤハが閉店になり、給与未払いで昨秋夜逃げされた。五人被害にあった。○八年九月分の¥二万三三七五と一〇日分の計¥三一万五〇〇〇が被害額。本人は今別W電機で働いている。↓二月一七日に私から監督署に未払い賃金の立替払い制度の活用で電話したら、「去年の秋にこちらに来られて、担当者とは別だが、人数も多いし何とかしてあげたかったので会社があつたアパートに直接行ったり（空き家になってたけど）、八方手をつくし検討したが、営業が一年以上継続してないなど様々な理由で立替払いできなかった。本人さんは言われてなかったですか？」とのこと。会社が途中で名前を変えたりしたということも本人も通訳さんに言っていたらしいので、もう一度監督署に電話したら「もちろんもちろんそのことも調べて検討して」と、「もちろん」を二回も言われ、うそではなくまじめに対応してくれたようなのであきらめた。二月一五日相談会の際には私の方から未払い賃金の立替払い制度の活用のことを言わなかったからではあつたが、本人は何も監督署行きの話はしていなかった。

・ブラジルに帰ってしまった経営者の一人の電話を知っているようなので「その人をブラジルのしつかりした知人に頼んでつかまえてお金を返させたほうが話し早いんでは」と私が言ったら、なぜか気乗り薄であった。

##### ⑤Nさん、中年男性。

本年一月七日に既に解雇されて、支払い明細等に疑問を持ち取り返したいという相談。

派遣先・能登川のA硝子工場、派遣元は愛知県一宮市だが、派遣先工場内に出勤あり交渉できる。

○八年十一月七日にいろいろへ理屈（生産減であるとかなんとか）を書いた解雇予告書を出して○九年一月七日に解雇。年休の残りは買い上げた。・・・さすがに大企業が派遣先になっていて形式上、法律上のどんつかれることは少なくしている。寮費も最後に¥三万五〇〇〇から¥七万〇〇〇にして、本人から出て行くようにしているのがいやらしい！・・・「光熱費¥五万〇〇〇」は返すと言ったのにまだ返さない、「部屋が汚れたので¥三万〇〇〇引く」というのは、交渉して¥一万五〇〇〇にてくれと言つてそうなったのにまだ返つてない、と。これは、私の名刺を渡して会社にし、すぐ返金をうながす交渉を本人がすること。最後の月の賃金明細書を示し、休暇手当て¥一七五〇と「公出¥一八九〇」がおかしいと、過去の賃金明細と勤務時刻表を示したので、「細かく計算して監督署に申告したらすぐ対処してくれる」とアドバイス。・・・組合に加入し、組合費を払ってくれたのではなかったか、ちょうどここで二時過ぎから始めた相談が五時になり、記憶あいまい。

#### 組織化のために

以上、五件。後から思えば、会社や監督署に同行してあげた方がいい件はないでは

なかつたが、あれだけ部屋いっぱい私の前にもずらっと並ばれると、「ここで明日からの関係機関への同行や、会社との団交申し入れなどを約束しても、そのあとの相談者が緊急を要すると約束は破綻するし」と不安にかられ、私の名刺を武器にそれぞれ頑張つてというのがせいっぱいであった。しかしあれだけ二時過ぎに二部屋いっぱいいの相談者が五時にはほとんどいなくなるというのは、マジックのようだ。小西書記長は何十人と引きつれ別室に行き、五時過ぎてもまだやっている。大口の組織化相談かもしれない。

そもそもこのように違法状態への対処はすぐ出来ても、本来の（労働運動や法廷闘争などで）解雇撤回闘争をやる時間とお金がない（知識とその手立てがないのは未組織だからなのは常に同じだとしても）。みな生活に切迫している。ダメなら地球の裏側に帰るしかない。その旅費も、ぐずぐずと滞在する費用もない。帰っても世界恐慌で展望はなし。

あれだけ物量作戦で全国の日本共産党・全労連あげてこの間派遣切り・期間工雇い止めで五六六人の組織化らしいから、わが千手観音の書記長を先頭に、私のような「一県民のボランティア」なども末席を汚しながら、一回の相談会で五六十人くらいずつ組織できていたのであるから、武庫川ユニオン滋賀支部も捨てたもんじやないとは思ふ。資本主義の矛盾とかくて抗している弱小の組織に、あとはぜひ乞う、全国の同志の物心両面の援助を。  
(二〇〇九・二・二六、滋賀県・稲村 守)

## 社会主義を展望する労働運動

### 規制緩和は日本的雇用形態の破壊で成り立つ

自民党麻生首相の支持率が一〇%台に落ちこみました。深刻な金融恐慌に「景気回復が第一」と力説するも、国民の七〇%が反対している二兆円にのぼる定額給付金で景気回復ができるかとオウム返しをしています。国内消費の六〇%が個人消費であり、散々に労働者から賃金搾取しておきながら国内需要の伸びなしに景気回復などありません。

これまで自民党は経団連と結託して、労働者の総額人件費削減をしてきました。その特徴的なものが派遣法の導入であり、「いつでも雇い、いつでも解雇できる」という非正規雇用です。「国際競争に勝つために、海外に生産の拠点をこれ以上増やさないために」など、マスコミがはやしたててきました。その本質はアメリカが毎年日本に突きつけている「年次改革要望書」による恫喝です。アメリカ企業が毎年日本に進出するには日本企業の力を弱めなければならぬ、「日本企業の強さは終身雇用、年功序列賃金である」ということを徹底的に叩くことを決意し、その表れが派遣法の導入です。

派遣法は、日本では戦後の暫くの間、「手配師」（スパー大辞林＝職業安定所などの公的機関を通さないで自由労働者などを雇用者に紹介し斡旋料を取る者）による中間



ピンはねを歯止めするなど、派遣労働は禁止されました。それが、アメリカの要望から一九八六年に業種制限の制約をつけて法制化されました。しかし、その後の一九九九年に業種の拡大、二〇〇五年には製造業も解禁になり、今日の派遣切りという悲惨な状況を生み出しました。

二〇〇八年の前半まで日本企業は史上最高の利益を上げていました。しかし、「二〇〇八年度下半期の経常利益は軒並み赤字を計上」したとマスコミが伝えています。しかし、各企業ともこれまでの利益の内部留保（スパー大辞林）企業が再生産の維持のために、収益から税金・配当・役員報酬などを差し引いて残った資金を企業に蓄積すること）があり、企業本体の赤字転落と異なる理解をしなければなりません。日本経済の改革は、国民の生活を大事にした計画性ある経済体制の再構築が望まれます。会社に入れば、正社員であり終身雇用、年功序列賃金という労働者にも企業にもモチベーションのある雇用確立こそ、社会秩序と社会保障制度などの安定を導くことになりません。

しかし、今日はアメリカナイズされた経営が評価され、非正規雇用などの拡大が企業価値を上げるという誤った経営感覚がはびこっています。このような市場原理の経営常識が続けば景気回復など夢物語になります。繰り返して金融恐慌の本質を解説すると、金融恐慌は銀行の倒産から始まります。一つの銀行の倒産の始まりが銀行同士（銀行間で融資の持ち合いをしている）の焦げつぎが連鎖となって倒産が広がります。銀行の倒産は、金融機関の貸し渋りに発展し、企業の運転資金をも枯渇させるなどで、企業倒産は増大と大量の失業者を生み出します。

#### 職場の討論から反撃の条件を明らかに

アメリカにおけるサブプライムローンの破綻は、ドミノになって国際金融市場を押し倒し、世界各国の経済を恐慌に陥れました。原油高でついこないだまでガソリンのリッター価格が一八〇円を超える高騰になっていたのが、原油減産をしても下落の歯止めはかからず一〇〇円を割るまでになってきました。為替レートについても一ドル九〇円を割り八〇円台まで円高が続き、円の強さが日本の強さに結びつかないところに矛盾も深まっています。

三人に一人の労働者が非正規雇用労働者になっている状況で、非正規切りが白昼堂々と行われ続いています。これまで労働基準法が繰り返して改悪され、派遣を作り、派遣切りすることに違法性はなしと法制化してきた自民党政治を糾弾しないといけません。

サブプライムローンは、自然発生的に生まれたものではなく、アメリカの目指す利益拡大から発生したことをチェックしないといけません。プライムローンが優良投資ならば、サブプライムローンは不良投資になります。低所得者を対象としたローンではなく、ブラックリスト者も大歓迎で貸し付けをするハイリスクのあるローンです。それでも儲けを企むハゲタカファンドが世界各国から群れをなし集まりました。莫大な投機資金が証券化した債権に散々に投じられました。一夜にして債権は紙くずと

なり、リーマン・ブラザーズまでもが倒産し、負の連鎖となり経済ダメージが地球上を覆いました。

日本経団連は、一九九五年、国際競争に勝つために「新時代における日本の経営」の経済戦略を立てました。終身雇用と年功序列は一握りのエリートだけにして、圧倒的多くの労働者を「いつでも雇い、いつでも解雇できる」単純雇用にしようとした。労働者を虫けら扱いできる雇用形態が今日の実態であり、今後は正規雇用労働者にも波及してきます。

### 資本主義社会の矛盾つかみ反撃を

○九春闘の決戦段階を迎えました。私鉄総連は「生活水準の維持と賃上げこそが景気対策」、「正規、非正規に関わらず、職場で働くすべての労働者の雇用確保を強く求める」と決意を明らかにし、賃上げ一万二五〇〇円（定昇相当分五五〇〇円十物価上昇分、生活改善費のベア分七〇〇〇円）の統一要求をします。要求額は、私たちの生活再生産費として切実なものであり、満額獲得するためにスト権投票の高率獲得を目指し、「不満なときはストライキ」の戦術を掲げ団結して闘っているときです。

経済情勢は、昨年二〇〇八年の今頃は、「戦後最長の景気成長」、「史上最高の企業利益」などと新聞紙上を賑やかしていました。アメリカのサブプライムローンをきっかけに金融恐慌が瞬く間に広がり株価の暴落、ビッグ金融機関の倒産が連鎖となり、世界的景気の低迷を招いています。私たちからしてみれば雲の上の経済情勢でありませんが、資本主義社会はそれを許しません。資本家は、たつぷりと懐に蓄えた内部留保にはおかむりして、自ら招いた雇用破壊を労働者の重石にすり替え、「賃上げよりも雇用」の逆宣伝で賃下げさえも狙っています。私たちは資本主義社会の矛盾をしっかりとつかみ反撃するときです。

私鉄産業は、輸送を基盤に地場産業として地域経済を育ててきました。その分、グローバル化への影響が少なく経済界では、「自然界のガラパゴス」と揶揄（やゆ）もされてきました。しかし、市場経済の崩壊から一時の斜陽産業のレッテルをはがしつつある私鉄産業は、減収減益ではあるもの確実に利益を右肩上がりに上げています。私たちが汗水流して働いた成果は、数字として京成電鉄の「平成二十一年第三四半期」で明らかに示しています。純利益（連結）において一〇一億四八〇〇万円の数字を示し、純資産は、一五八八億一二〇〇万円まで伸ばし、自己資本比率は、前年末より、一・八%増の二二・七%に成長させています。

ここに至るまでには、多くの合理化、なかでも総額人件費の見直しポイントとなっています。数少ない人員で仕事をさばき、正規雇用はいとも簡単に非正規雇用に取って代わり莫大な人件費を企業は当たり前前に搾取しています。

今や京成資本は、確実に内部留保と利益を積み重ねています。○九春闘を雇用危機と景気の低迷を逆宣伝する資本に負けない反撃をするときです。そのためにも、経済情勢の分析と社会主義を展望する運動の取り組みが求められるときです。

## 総力をあげて三月闘争へ

— 一〇四七人問題解決へかく闘う —

国鉄闘争は二月一六日、二十三年目の「春」を迎えた。この春を本当の春にしようと首切られた仲間たち、本体の仲間たち、支援・連帯する仲間たちが東京・永田町の星陵会館に集結した。集会の目的はただ一つ。「解決局面にある」この闘争を、勝利に導く陣立てをさらに大きく強く固くし、政治決着への条件をつくり上げることだ。目的は達成された。集会には民主党、共産党、社民党、国民新党、そして政権与党の公明代表が参加。それぞれに「政治解決」への努力を表明したからである。カギは政権党への働きかけである。

鉄建公団高裁判決は三月末から四月初めといわれる。闘争団・争議団、そして組合、支援共闘は三月三日から一八日まで第三次統一行動を衆院第二会館前座り込みを中心に展開する。

## いざ主戦場へ！

「雇用・年金・解決金」の要求を堅持し、政治の責任で解決を図らせるため、一月、二月と国会前行動等を積み上げてきました。2・16集会の与野党代表者からの発言を受け、三月が大きな山場であり、私たちの構えと行動が大変重要になってきます。残された僅かな期間、持ちうる全ての力を結集しなければなりません。

### 忘れられない、忘れることの出来ないこと

一〇四七名の内、二度目の解雇を受けてから五一名の仲間が亡くなりました。分割民営化攻撃時には、管理者も含め二〇〇名以上の国鉄労働者が自殺しています。今も闘病生活が続いている仲間も多くなります。同じ時期に民営化された電通、専売の労働者、民営化がスタートした郵政、今、採否を目前にしている社保の労働者はどういった状況に置かれているのだろうか？ 政治屋と大資本の私利私欲のために人生が狂わされ、尊い命が奪われている実態は決して大きく報道されることはありません。

二月一六日は、私たちや家族にとっては忘れることの出来ない日です。しかし、この二月という月はまだ忘れる事の出来ない日が私にはあります。ひとつは一九九〇年二月一二日、二度目の解雇が目の前に近づいてきた日、私の北見清算事業団で仲間が自ら命を絶ってしまう事件がありました。事業団当局に、とうてい行くことのできないような就職先を斡旋され、「これを断つたらもう行くところがないぞ」と毎日言われ続け、家族を抱え悩んだ末の事でした。役員をしていた私は、真っ先に自宅に駆けつけました。その仲間の顔を今でも忘れることが出来ません。

それから九〇年の二月、国労旭川地本副青年部長をしていた川合さんが、雪の下から凍死体で発見されたことです。旭川の清算事業団に送られた川合さんは、仲間が広域移動に応募する中、年離れた父が病気で広域に応じることが出来ませんでした。そこで一度は就職をするのですが、会社が「お前の思想を変える」と言って政治学校に送り込もうとしたためそこを辞めました。それから職安、新聞などを見て就職先を探すものの断られ続け、凍死という自らの命の断絶でした。二九歳という若さでした。なぜこの話をするのかといえば、私が、一九八八年三月に清算事業団の取り組みで

旭川鉄道学園（民間講座）に入園した時、北見から一緒に行った先輩に、古本屋で見つけた、「これ読んで少し勉強しろ」と共産党宣言を手渡されました。その本は所々線が引いてあって勉強した跡があり、後ろに川合という印鑑が押してありました。最初は気づかなかったのですが、亡くなった後、川合さんの持っていた物ではないかと思ひ、旭川の方にいろいろと聞いてみると、就職する時、過去を全部清算するかのようにな書籍等は全て売ったようだと聞き、川合さんの物であると確信しました。「遺族の方にお返しをした方が」と何度か思いましたが、何かの巡り合わせで私の手元に来たということとは、「自分の悔しさ、無念さを晴らしてくれ」と言っているようで、勝利解決をするまで持ち続けていようと決めました。上京の時はいつも持ち歩いてます。今回の上京行動でも共に闘うつもりで持っていきたいと思ひます。

### 無理、出来ないは路頭に迷う道

今も昔も資本主義社会が続く限り弱者が虐げられ、切り捨てられる構造は変わりません。政治屋は官僚に働きかけ大資本と外国資本の利益を増大させる政策を表現させ、その代償として官僚は天下りを始め特権を擁護してもらいます。政治屋は利益増大の恩恵にあずかった大資本と外国資本からリベートをもらい、マスコミも政治屋、大資本を擁護することで広告収入を得ています。史上空前の利益を大資本・外国資本が得る陰で、障害者自立支援法、後期高齢者医療制度などの福祉や医療、地方自治体が切り捨てられ、汗水流して働いても年収二〇〇万円を確保できない労働者を多く生み出し、企業の都合のいいように切り捨てられています。

国鉄分割民営化からさらに露骨に、執拗にこの構造が強化されてきたというのであれば、私たちは、その状況に置かれていらっしゃる方々と手を結び反撃の狼煙を上げていかなければなりません。私たちの闘いの解決内容いかんによつてこれからの労働運動、子や孫の時代の社会に影響が及ぶといつても過言ではないと思ひます。私も三月二日（月）～四月二日（木）の上京行動に参加します。いわれのない解雇を受け、今日まで放置されてきた怒り、悔しさを行動にぶつけ、勝利解決を勝ち取るまで四国には戻らない決意で闘ってきます。

支援してくださいさっている四国各県の皆さん！ 約一ヶ月四国を留守にしますが、よろしく願ひいたします！ 三月上京の際は、衆議院議員会館前に激励に駆けつけて下さい。（国鉄闘争四国共闘会議 中野 勇人）

## 人間の価値がない社会

### ― 首切り記念日 ―

二二回目の「首切り記念日」＝「二月一六日」を迎えるにあたり、私たちが置かれている境遇に時代が追いつき、人々は抵抗力を喪失している現実を痛切に感じます。

私たちの闘いとは、生活権闘争であり、絶え間なく人間の尊厳を破壊し搾取を続ける企業社会に異議を唱える闘いです。

しかし、世の中は「民営化」と言いさえすれば、「何でも正しい」と錯覚する国民体質が作られました。公的機関は軒並み解体され、公的サービスが奪われ地域社会は衰退してしまい再生不能な状況です。「限界集落」と呼ばれる高齢者だけの地域社会が「消滅集落」になるのにそんなに時間はかからないでしょう。

信楽鉄道や尼崎の列車事故で奪われた数百の命のことは、時が過ぎてしまうと当事者以外は忘れ去ってしまいます。私たちは「国鉄解体を民営化の手本にしてはならない」との思いから、二二年の歳月を闘ってきましたが、社会矛盾と向き合う勢力は弱まるばかりです。

現在の日本社会では、矛盾が矛盾でなくなり、「平等な社会」などという言葉自体が死語になってしまいました。民間企業では、利益を上げるほどに賃金は押さえ込まれ、労働者は「社畜」のように扱われています。

「職業は」と聞けば「フリーター」と公言し、恥じることもない若年失業者の群れは、とめどなく増え続けるばかりです。「IT企業」・「ネット産業」と呼ばれる「濡れ手で粟」の商法が絶賛され、詐欺が商売になる社会になりました。年寄りや弱者を狙い打つ詐欺犯罪の続発は、世の中から排除された者たちの間違った抵抗に見えます。今の日本社会、どの断面からも「人間の顔」は見えてきません。国民は、国家の「エキストラ」としての価値さえ与えられず、「偽装」「詐欺」「殺人」「自殺」が、この国の日常風景になってしまいました。

人が人として存在することを許さない社会は、ある日突然に発生したわけではありません。人々が目を閉じ、耳をふさぎ、口を閉ざす日々按比例して、それは確実に成長してきたのです。

どう闘い、どこから変えれば良いのか？ と、自問自答し続けた二十二年間でした。この春にも示される「東京高裁判決」が、私の歴史の集大成になります。

(国労大分闘争団・赤峰 正俊)

## ◇ 読者からのおたより ◇

政治を変える 一年間ありがとうございました。東京で行われている政治屋たちの政治が、これほどまでに直接私達の生活をおびやかすとは：改めて考えています。一票で社会を変え、全ての人がいくらかでも安心に生活できる世の中を作り出して行きたいです。健康に注意され宜しくおねがい致します。(浅川 初幸)

編集部より おつしやるとおり。それには労働者の政党がなによりも必要。悩みですね。

労働者は仕事を奪われる 百年に一度と言われる世界的な大恐慌といわれる真只中で新春を迎えました。労働者は仕事を奪われ生きる保障さえもなく、労働組合や市民団体が主催する日比谷公園の「年越し派遣村」で「我々は生き抜くぞ！」大晦日の朝に行われた開村式。公園の一角に集まった人々の掛け声が凍えた空気を振るわせた(熊日新聞)、とあり身の引き締まる思いです。昨年の第四五回一・九抗議集會は大変厳しい社会情勢の中で、一七四名の仲間の皆さんが結果して下さいましたことに心から感謝申し上げます。あの大災害以来四五年間の中で国や会社の責任を追究し、裁判闘争や被災者が人問らしく、生き続けられる補償を求め闘い続けた中間総括として、一冊の本にまとめました。若い労働者の皆さんのご一読を。(三池COと共闘の会・事務局長 清水 栄子)

編集部より この本、内容豊かです。ぜひ一読を。

キューバ革命五十周年 今年キューバ革命五十周年を迎える。四月二七日からキューバ訪問団が

派遣される。家庭の事情で行けない、残念。★チェ・ゲバラの生涯が十日よりパート1「チェ二八歳の革命」が三日より、パート2「チェ三九歳の別れの手紙」が公開される。新聞の全面広告など連日、記事を目にする★監督はアメリカ人、「革命はロマンチックなどの幻想を持たないで欲しい」「彼を銅像にしないよう心掛けた」とのこと。キューバの場合は対話でなく武力で労働者の解放をしたが日本は議会制民主主義を踏まえての事★失業問題を考えながら日本に置き換えて「今何が出来るか」を自らに問いかける★パート1の感想は戦闘シーンもあるが国連総会で演説するチェ・ゲバラの実写、戦闘の合間に兵士に読み書きを教える姿、負傷者を見捨てない医者、住民からの略奪を許さない説得力にロマンを感じた★個人崇拜は社会主義とは無縁のもの、経済封鎖のキューバでは生活環境は厳しい、でも日本より暮らしやすく感じるの何故か★一方で反カストロの勢力がゲバラを殺人者と呼ぶ、農民や労働者を奴隷のように使い搾取し、反抗するものを拷問し殺戮して逃げた輩には私は与しない。

編集部より ゲバラ人気は相変わらず。それにしてもキューバは五十年もどうして存続できたのか。キューバ訪問の最大のポイントはどこでしょうね。

ごぶさたです この度は私たちの『生きる』編集にかかわって貴誌の『環境問題 基本視点』を紹介いただきありがとうございます。長い間、原稿・報告送れず申し分けありません。ごぶさたしていても「社会通信」の情報・コメントは私たちの社会運動の糧として、いつも活用させていただいています。

編集部より Iさんのご活躍ぶり、いつも目、耳にしています。お役にたてて嬉しい。(奈良・I)

労働者と結びつく 一三日は熱海で一四日は滋賀でした。派遣切り相談ばかり。反撃は簡単ではありませんが、一緒に考えるしかありません。職場闘争か地域かなどとのどかな議論をするひまはありません。現実の労働者といかに結びつくかです。発信し続けようと思っています。(兵庫・K)

編集部より 二月一四日は茨城でお話しされるようですね。久し振りに小西節が聞きたかったのに。他に所用で参れませんが、つれ合いは「聞きに行く」ですって。

みんな人間だった： 「一〇〇年に一度の大不況」と、危機感のカケラもない輩が声を荒げて見せる。国の悪政によつて職を失った「派遣労働者」たちに対して、たった一、二ヶ月の偽善的救援策を講じて優越感に浸る与野党の「政治屋」や「ロウドウクミアイ」の幹部達：まさにマッチ・ポンプ（自分で火を付け、自分で消す）である。それまで、国家（地域）のイベントや、住民の苦情を理由に「駆除」されてきた者たちも「みんな人間であった」ことを知っているのだろうか？

(大分・H)

編集部より マスコミの「派遣切り」キャンペーンは異常。そのキャンペーンからしぶしぶ動いているのが「ロウドウクミアイ」。それにしても「年越し派遣村」の企図はお見事でした。

無投票選挙に―岐阜市長選 無投票となった市長選の新聞記事を同封します。市長選挙にかかる費用は九千万円と言われていましたが、知事選との同時投票で少し安くなって六千万円とのことでした。無投票となったので、投・開票の事務費など、もう少し安くなったでしょうが、このきびしい財政状況の中「ムダな選挙により、公費のムダ使いをするより、もっと有効に使え」と言った声も聞かれました。三月議会にむけて、存続派市議への切り崩しもはじまるでしょうが、決着は一年後の選挙で、対立候補が統一してたてられるかどうかにかかっています。

岐阜市は今までに七つの市立保育所を無償で民間の団体にわたしてきました。また市立の女子短大は新築しましたし、市立の薬科大学は老朽化し立て直しを計画しています。さらに大学院を（国立）岐阜大学の敷地に隣接する所に、建設する計画とも言われています。岐阜市在住の子弟は一〇%にもなりません。五〇%以上の子弟が通う市岐商を立命館にというのはムリがあったようです。

(岐阜・K)

増田都子さん「多田謡子反権力人権賞」受賞 昨年一二月二十日（土）第二〇回「多田謡子反権力人権賞」受賞発表会が総評会館で盛大に開催され、受賞者の方々には多田謡子さんの著書『私の敵が見えてきた』ならびに賞金一〇万円が贈呈され、引き続き受賞者による講演が行われました。

今回受賞した方は次の三団体と増田さんの個人です。☆首都圏青年ユニオン（青年の不安定雇用との闘い）☆フリーター全般労働組合（青年の不安定雇用との闘い）☆死刑廃止国際条約の批准を

求めるフォーラム90（死刑廃止運動）☆増田都子さん（考える平和教育への攻撃との闘い）

編集部より 都子さんおめでとう。さらにがんばつての激励ですな。